

1
2022/JAN
こども園せいび



園からの便り ひぐらし

憧れのビッグバン

突然だが、「爆破ウェディング」という言葉をご存じだろうか。

新年早々、「特撮のロケ現場で、爆破結婚写真を撮ってきた」という数年前に書かれたブログを、たまたま発見してしまった。「ひぐらし」には、新春にふさわしい内容をと、思案していたはずなのに、ある一枚の写真に、そのことを書かずにはおれないほどの、感動を見出しってしまったのである。

地面からドカーンと四方に粉塵が舞い上がる、戦隊ヒーローものでお馴染みのあの場面。それを背景に、ブーケを手に、ウェディングドレスとタキシードでここにやかに佇む新郎新婦。

祝事と爆破という取り合わせのギャップに、そのシュールな光景に、そのとぼけた発想に：私はやられてしまった。

時代の先を行く皆さんには、もう過去の話題と苦笑されそうな気もするのだが、元々は、爆破シーンをバックに、コスプレ愛好家たちが決めポーズで写真を撮

撮るというサービスなのだそう。

結婚式らしいこともせずに一年余りを過ごした若い夫婦が、じゃあ、カッコいい結婚写真くらいはと思いついたのが、この「爆破結婚写真」。

多くのコスプレイヤータちに混じって、イベント会社が用意したバスに乗り込む二人。特撮ロケ地で有名な採石場跡地へと向かうところから、そのブログは始まるのである。

ナンセンスで馬鹿馬鹿しいと言ってしまうまでもであるが、粉塵が巻き上がる前で、正装をして真顔で収まる二人の姿に、可笑しさを通り越して、何とも言えない味わいを感じ、心惹かれてしまっているのである。恐らくそれを：上質な？センスや感性を感じる、と表現するのかもしれない。いやもはや、ある種の知性すら感じる：そう言う時は、少し言い過ぎだろうか。



この奇妙な感動というは、子どもの、キテレツな発想に出くわした時の驚きと似ている。

先日、うみぐみ(3歳児)の子どもたちが、2つに分けた自分たちのグループに、それぞれ名前を付けたと聞いた。そのひとつが「くるくるお化け」、もうひとつのグループが、奇しくも「爆破」になったというのだ。

名前らしきなんて微塵も考えない、3歳児ならではの大胆なネーミング。そして、自分たちの考案した名前について、実際はどんなイメージを持っているのだろうかと思っただけの担任たちは、それを絵で表現してもらったというのだ。

子どもにとっても、私をはじめとした大人たちにとっても、「爆破」という非日常的な光景が、たまたまなく魅力的であること、どうやら間違いはないようだ。

そういえば、この3歳児



たちが、凧づくりに勤しむ場面にも遭遇した。

その日は、造形作家のこいちさんが関わってくれた日。和紙に滲み絵を施し、それを存分に楽しんだ後に、その紙を凧に仕立てていく。揚げることにだけ囚われて、安易にビニールで作ってしまいうちになる。専門性とは、ここにあるのだなと関心をした。

さて、ロケ地

に着いた二人は、待ち時間の間、つらつらと周辺を歩き回っているうちに、その石切場の荒涼とした独特な雰囲気魅了されていく。

そして爆破には、炎上がる「ナパーム爆破」と、粉塵舞う「セメント爆破」があることなども知っていくのだ。

新しい世界との出会いが、新たな気づきと学びをもたらす事も、うちの3歳児た



ちと何も変わりが無い。

こんな爆破イベントサービスという仕事があるなんて、想像もしなかった。そしてどうやら、このブログをきっかけに、「爆破ウェディング」で利用する人も増えていったようなのだ。

仕事や職業とは、もはや選ぶものではなく、創り出していくもの：これからは、そうした力が必要なようだ。

このイベント会社のホームページを覗いてみると、今は、ひとつひとつのイベント開催の判断に腐心しているようす。見渡せばどこも、コロナ禍だ。

園長 折井誠司

- 編集 幼保連携型認定こども園せいび
- 編集人 折井 誠司
- 発行人 折井 誠司
- 印刷所 幼保連携型認定こども園せいび
- 発行所 社会福祉法人 誠美福祉会

〒192-0364 東京都八王子市南大沢5-1-2
電話 042-6975-1551
ファックス 042-677-5643
Email seibi@kodonomokyo
http://kodonomokyo/